

キャラクター名 プレイヤー名

メインクラス	メイジ	Lv.1:		レベル	2
サポートクラス	メイジ	Lv.1:	メイジ	性別	女
称号クラス				年齢	67
種族	エルダナーン			境遇	裏切り
出自 (効果)	王侯貴族			目標	復讐

	筋力	器用	敏捷	知力	感知	精神	幸運
基本値	7	9	9	13	9	11	7
ボーナス	2	3	3	4	3	3	2
クラス修正	0	0	0	2	2	2	0
他修正							
能力値	2	3	3	6	5	5	2

HP	31
MP	44
フェイト	6

装備品		射程	命中	攻撃	回避	物防	魔防	行動	移動
右手									
左手									
頭部									
胴部	ローブ					2			
補助									
装身具	グリモア								
能力値			3	0	3	0	5	8	7
スキル									
その他									
総計(右)			3	0					
総計(左)			3	0	3	2	5	8	7
総計(両)			3	0					m
ダイス数			2 d	2 d	2 d				

	能力値	スキル	その他	合計	ダイス数
トラップ探知	5			5	+ 2 d
トラップ解除	3			3	+ 2 d
危険感知	5			5	+ 2 d
エネミー識別	6			6	+ 2 d
アイテム鑑定	6			6	+ 2 d
魔術判定	6			6	+ 2 d
呪歌判定	5			5	+ 2 d
錬金術判定	3			3	+ 2 d

所持品	
MPポーション	
冒険者セット	
バックパック	

現在重量: 7
 最大重量: 7
 所持金: 1140
 預金・借金:

スキル名	SL	コスト	タイミング	射程	対象	判定	制限	メモ
イモータリティ	★	-	パッシヴ	-	自身	-		
効果:	《トリビアリスト》を取得する							
マジシャンズマイト	1	-	パッシヴ	-	自身	自動成功		
効果:	魔法攻撃のダメージに+[SLd]する。							
イモータリティ	1							
効果:								
トリビアリスト	1							
効果:								
ファイアボルト	1							
効果:								
コンセントレイション	1							
効果:								
マジックフォージ	2							
効果:								
ファイアロード	1							
効果:								
リゼントメント	1							
効果:								
ヒストリー	1							
効果:								
モンスターロア	1							
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								

伯爵ケイトスペード家の生まれ。両親と双子の妹としてベルシュカという娘がいる。姉妹仲は数十年経っても何気にも良い。エルダナーン特有の美貌の中でも一際整った美しさを兼ね備えるため、周囲から「煌めく貌のガラ」「笑顔を見ただけで癒が治った」「何食ったらそうなるの?」「顔にデックい天上楽土乗っけてんのかい」「エリンドン大陸有形文化財」などなどと呼ばれ、存在を全肯定されて蝶よ花よと育てられ、さらに性格の奔放さ天真爛漫さ明るさという所、自信から来る優しさなどからも領民や両親、周りの人間からの寵愛を一身に受ける。しかしお陰で何というか、無駄にわがままで高慢で高圧的で底抜けにポジティブで天真爛漫過ぎる性格になってしまった。無理もない。その容姿の良さをフルに活用し、自分ではない誰かに何でもかんでもやらせてきたのだ。父からの警告も何度かあったが、厄介なことにコイツ底抜けにポジティブだった。何れ回ってくる、爵位の継承等々に関しても何を根拠にかはわからないが、自分に回ってくるだろうと思っていた。一方姉とは正反対の物静かで控えめ、謙虚な人から一線引くある意味エルダナーンっばいっちゃんばい妹のベルシュカは黙々と勉強、知識見の収集に明け暮れていた。誰に言われるでもなく、黙々と。二人の中身の深さ厚さは明確だった。そして継承権を巡る合議の場、二人は呼び出された。当然自分が選ばれると思ってるガラ、自分より姉の方がそういったことに関しては向いてる気がする…と考え、父の言葉を待つ。「爵位継承及び領地領民の統治に関してだが、現在まだ具体的なことは未定ではあるが、全てをベルシュカに任せつつもではいる。」とのこと。ん…?聞き間違えたかな?すみません御父様、もう一度聞いてもよろしくて?え?何?ベルシュカに?ガチです?ガチですわねこれ…

…まあ、理由は当然っちゃ当然であった。貴族階級として技量はまだないが相応しい知識をしっかりと持ち合わせるベルシュカの方が圧倒的に領地、領民のためになる。おまけに父にこう宣言される。「ガラよ。我が愛しい娘よ。えっと、その、うん。心を鬼にして言わせてもらうかな?お前…家族として、いやぶっちゃけ人としても結構ダメ過ぎる。こう、ダメの煮凝りみたいになっちゃってるお前。確かに私達も多少育児のやり方や関わり方を間違えてしまった。しかし何度もお前には伝えたはずだ…顔が良いだけでは領民も統治することは愚か我がケイトスペード家の威光に関わらせることもできない。よって、然るべき功績と然るべき経験を得るまでは貴様にこの家の敷居を跨がせません!!!!!!」